

# バラク・オバマ——「アフリカ系のジョージ・ワシントン」の歴史的文脈

越智道雄

言うまでもなくオバマは、1950年代に始まったアフリカ系の公民権運動、1960年代のカウンターカルチャー（中流白人の意識覚醒）、1980年代の文化多元主義（multiculturalism）の成果として大統領に選ばれた。最後のものは、移民の母語と文化を尊重、ゆるやかに社会主流化（mainstreaming）させていくもので、かつての過酷な同化主義（assimilation）と対極をなす。

しかし、有色人種の大半がオバマに投票したのは当然として、白人男性は有権者総数の41%、白人女性は46%がオバマに投票しただけだった。残りの白人の大半がマケインに票を投じたのである（男性57%、女性53%）。この多くが、南部や「赤地域（共和党支持地域）」のキリスト教右派その他の差別的な白人だった。

しかも1930年代の大不況に迫る置き土産をブッシュから引き継いだオバマは、はなから抜き差しならぬ切所に立たされた。早くも側頭部に白いものが見え始めたし、演説も失言は絶対で法度、テレプロンプターの使用頻度は歴代大統領では群を抜いている。さらに暗殺への懸念から装甲車なみの乗用車が用意された。ドアの厚みはオバマの頭部より幅があり、窓ガラスは15.24センチもある。すでに暗殺未遂は4件起きているし、脅迫は無数である。

映画『遙かなる大地へ』（92）の最後で描かれるオクラホマ・ランドラッシュは、19世紀末、騎兵隊を使って先住民の土地を奪い、その土地を区画して入植希望の白人男女に提供した史実である。騎兵隊はものすごい数の入植希望者をスタートラインに立たせ、大砲をぶっ放して目当ての区画へと競争させた。凹凸のひどい地面で馬車や馬は転倒、死傷者相次ぎ、区画の奪い合いで死者も出た。有色人種は、先住民も含めて、このラッシュへの参加を拒否された。

ランドラッシュは、アメリカン・デモクラシーの縮図で、スタートラインが「平等」、ラッシュが「自由競争」である。後の公民権運動は、有色人種がスタートラインに立たせると「機会均等」を要求する運動だった。オバマの大統領当選は、この運動の完遂を象徴している。他方、「自由競争」は、「結果の不平等」である。「平等+自由競争=民主主義」——この矛盾に満ちた等式の変数を平等へとずらしたのが社会主義、そしてローズヴェルト（FDR）政権が1930年代の不況対策で断行したニューディール政策だった。不況の原因は、自由競争に変数をかけすぎ、政府が独占企業に味方した結果、資本主義が停滞したためだった。FDRはそれを是正、平等へと変数を切り換えた。それを1980年に元通り自由競争へと激しく引き戻したのが、レーガン政権だった。



Aude Guernucci-Pool/Getty Images

レーガンを助けたのが、計画経済によって自由競争を過重な平等で押さえ込んだ中ソなど社会主義政権の低迷だった。低迷の原因は計画経済が個人の自由競争を禁じた点にあった。レーガンは、ランドラッシュのような激的な欲望解放によってしか経済の低迷防止は不可能と見切ったのである。今回の大不況は、デリヴァティブによって経済規模を天文学的に高めた経済的ラッシュ（暴走）が原因だった。オバマは、FDR同様、平等の変数値を上げるしかない。

しかし、オバマ個人もまた、アフリカ系としてラッシュの頂点を極めた。そこでアフーマティヴ・アクション（人種・性別による進学・雇用・昇格・ビジネス契約面での優遇措置）で、「人種・性別」の変数値を下げ、底辺に取り残された人々を人種と性別抜きで優遇する新たなアフーマティヴ・アクションを唱えている。つ

まり、オバマに投票しなかった白人ブルーカラー男性などを優遇対象にするのだ。

自分を拒否した勢力を窮地から救済する利他的な任務が、史上最初の有色人種大統領、しかも先祖が奴隷体験を持たないケニア黒人の父と差別的な南部白人の子孫ながら開明的だった母との間に生まれた混血大統領、に課せられた——この皮肉こそオバマが担う歴史的意味合いである。FDRその他、WASP大統領たちは、自分に投票した勢力を窮地から救い出した。むしろ、オバマは窮地に陥った自由主義経済も、銀行や基幹産業に国費を投入して救出しなければならない。これほどの十字架を背負わされたがゆえに、オバマは「アフリカ系のジョージ・ワシントン」となる宿命を生き抜いた。そして、前述の白人たち（男性41%、女性46%）もまた、彼に自分たちの運命を託したのである。

おち みちお

明治大学名誉教授。日本翻訳家協会評議員。英語圏新世界諸国の比較文化研究がライフワーク。『オーストラリアを知るための48章』（明石書店）、『ワスプ』『日米外交の人間史』（ともに中公新書）、『アメリカ「60年代」への旅』（朝日新聞出版）、『カリフォルニアの黄金——ゴールドラッシュ物語』（朝日選書）、『ブッシュ家とケネディ家』（朝日新聞出版）、『なぜアメリカ大統領は戦争をしたがるのか？』（アスキー新書）、『アメリカン・エスタブリッシュメント』『誰がオバマを大統領に選んだのか』（NTT出版）、『オバマ・ショック』（共著、集英社新書）ほか、著書訳書多数。

# 教授のおいしい英会話

## — アメリカ編 —

霜崎實／ジョージ・ドウ [共著]

1,890円（税込） 四六変型判 192ページ

NHKラジオ講座「英会話入門」の3ヶ月間のコースを速習2週間!で学べるようにコンパクトにまとめた英会話独習書。付属のCDを使った反復練習で、英語表現のコツと英語のリズムを体得。音声CD2枚付き。

